

# 平成二十五年歌会始御製御歌及び詠進歌

立

御製  
万座毛まんざもウに昔をしのび巡り行けば彼方あがたおんな恩納岳さやに立ちたり

皇后陛下御歌

天地あめつちにきざし来たれるものありて君が春野に立たす日近し

皇太子殿下

幾人の巢立てる子らを見守りし大公孫樹の木は学び舎に立つ

皇太子妃殿下

十一年前吾子の生れたる師走の夜立待ち月はあかく照りたり

文仁親王殿下

立山にて姿を見たる雷鳥の穏やかな様に心和めり

文仁親王妃紀子殿下

凜として立つ園児らの歌ごゑは冬日の部屋にあかるくひびく

正仁親王妃華子殿下

露のたう竹籠もちて摘みゆけばわが手の平に香り立ちきぬ

崇仁親王妃百合子殿下

俄かにも雲立ち渡る山なみのをちに光れりつよき稻妻

憲仁親王妃久子殿下

冬晴れの雲なき空にそびえ立つ雪の大山いともさやけき

承子女王殿下

立ちどまり募金箱へと背伸びする小さな君の大きな気持

典子女王殿下

庭すみにひそやかに立つ寒椿朝のひかりに花の色濃く

絢子女王殿下

冴えわたる冬晴れの朝畦道にきらきら光る霜柱立つ

御製  
万座毛まんざもうに昔をしのび巡り行けば彼方恩納岳あがたおんなさやに立ちたり

昨年十一月、天皇后両陛下が、沖縄県で開催された全国豊かな海づくり大会の機会に恩納村の万座毛にお出でになった際、この地と恩納岳が琉歌に詠まれた十八世紀の琉球王朝の時代に思いをいたされ、お詠みになった御製。

### 皇后陛下御歌

天地あめつちにきざし来たれるものありて君が春野に立たす日近し

昨年二月の冠動脈バイパス手術の後、陛下にはしばらくの間、胸水貯留の状態が続いておすぐれにならず、皇后さまは、「春になるとよくおなりになります」という医師の言葉を頼りにひたすら春の到来をお待ちでした。この御歌は、そのようなある日、あたりの空気にかすかに春の気配を感じとられ、陛下がお元気に春の野にお立ちになる日もきつと近い、というお心のはずむ思いをお詠みになったもの。

幾人の巢立てる子らを見守りし大公孫樹の木は学び舎に立つ

皇太子殿下

皇太子殿下には、昨年秋、御自身が学ばれ、現在は愛子内親王殿下が通われている学習院初等科で「大いちょう」と呼ばれて親しまれている大きな銀杏の木が美しく黄葉し、その下で多くの児童が遊んでいる様子を御覧になりました。そして、昭和のはじめ頃から自生するこの銀杏の木に見守られながら、幾人のこどもたちが巢立っていったのだろうと感慨深く思われ、歌にお詠みになられたものです。

皇太子妃殿下

十一年前吾子の生れたる師走の夜立ち月はあかく照りたり

愛子内親王殿下は平成十三年十二月一日 午後にお生まれになりました。

その日の夜、空に月が明るく照っていたことを皇太子妃殿下には大変印象深くお思いになりました。

後に、妃殿下にはこの月が十五夜から二日後にあたる十七夜の立ち月であったことをお知りになりました。

このお歌は、内親王殿下がお生まれになられた日の夜の光景を懐かしくお思いになりながらお詠みになられたものでございます。

## 文仁親王殿下

立山にて姿を見たる雷鳥の穏やかな様に心和めり

秋篠宮殿下は、一九九一年十月、富山県に於いて開催された第三回日本自然保護会議記念式典にご出席になった折に、立山を訪れられ、野生の雷鳥を観察されました。

野生の雷鳥をご覧になったのは初めてでいらしたとのことですが、人を怖がらない様子に驚かれるとともに、その姿を見て穏やかな気持ちになったことを今でもよく覚えておられるとのことです。その時のお気持ちを詠みになりました。

## 文仁親王妃紀子殿下

凜として立つ園児らの歌ごゑは冬日の部屋にあかるくひびく

秋篠宮妃殿下は、悠仁親王殿下が通われる幼稚園にて、保護者が一緒に参加する行事などで子どもたちの歌をお聴きになる機会があります。幼稚園の二期期の終業式には、年長組の子どもたちが姿勢を正し、明るく元気に歌う声が遊戯室に響きわたりました。この様子を、お歌にお詠みになりました。

## 正仁親王妃華子殿下

露のたう竹籠もちて摘みゆけばわが手の平に香り立ちきぬ

五月の連休前後に那須の路で露の臺を摘みに出かけた時のことをお詠みになったものです。

崇仁親王妃百合子殿下

俄かにも雲立ち渡る山なみのをちに光れりつよき稻妻

以前、群馬県にお成りになられた際、突然稻妻が走った山の景色をご覧になり、それを思い出されお詠みになったものです。

憲仁親王妃久子殿下

冬晴れの雲なき空にそびえ立つ雪の大山いともさやけき

冬晴れの日、コハクチョウの撮影のために訪れていた島根県安来平野よりご覧になった大山の美しい姿を詠まれたものです。

承子女王殿下

立ちどまり募金箱へと背伸びする小さな君の大きな気持

募金活動のお手伝いをされていた際、三歳くらいの男の子がとても嬉しそうに五百円玉を入れてくれた姿が印象的で詠まれたものです。

典子女王殿下

庭すみにひそやかに立つ寒椿朝のひかりに花の色濃く

庭の隅に立つ寒椿が朝陽あさひに照らされている情景を詠まれたものです。

絢子女王殿下

冴えわたる冬晴れの朝畦道にきらきら光る霜柱立つ

冬の朝、ピンと張りつめたような空気の中、田んぼ道を自転車で走っているとその寒さから田んぼ一面に霜柱が広がっており、霜柱が朝陽あさひに照らされてキラキラと輝いている様子を詠まれたものです。

伊勢の宮み代のさかえと立たすなり岩根にとどく心のみ柱  
召人 岡野弘彦

選者 岡井 隆

やうやくに行方見え来てためらひの泥よりわれは立ち上がりたり

選者 篠 弘

ゆだぬれば事決まりゆく先見えて次の会議へ席立たむとす

選者 三枝昂之

すずかけは冬の木立に還りたりまた新しき空を抱くため

選者 永田和宏

百年ばかり寝すごしちまつた頸を立て亀は春陽に薄き眸を開く

選者 内藤 明

遠き日の雨と光を身に湛へ銀杏大樹はビルの間に立つ

選 歌 (詠進者生年月日順)

北海道 佐藤マサ子

羽搏きて白鳥の群れとび立てり呼び合ふ声を空へひろげて

埼玉県 若谷政夫

ほの白く慈姑の花の匂ふ朝明日刈る稻の畦に立ちをり

静岡県 青木信一

自画像はいまだに未完立て掛けたイーゼル越しの窓が春めく

新潟県 宮澤房良

何度目の雪下しかと訊ねられ息をととのへ降る雪に立つ

群馬県 鬼形輝雄

いつせいに蚕は赤き頭立て糸吐く刻をひたすらに待つ



新潟県 高橋健治

吹く風に向へば力得るやうな竜飛岬の海風に立つ

福島県 金澤憲仁

安達太良の馬の背に立ちはつ秋の空の青さをふかく吸ひ込む

栃木県 川俣茉紀

ネクタイをゆるめず走る君の背を立ち止まらずに追ひかけるから

大阪府 瀬利由貴乃

人々が同じ時間に立ち止まり空を見上げた金環日食

東京都 太田一毅

実は僕家でカエルを飼つてゐる夕立来るも鳴かないカエル

佳 作 (詠進者生年月日順)

富山県 細川喜久恵

調髪を終へたる客の遠のくを角曲るまで立ちて見送る

福島県 芳賀ナツ

一歳のつかまり立ちを支へゐる八十五歳も摺まりて立つ

三重県 乾 定子

ひとりでは立ち難きわれひとりでは立ち得ぬ杖と庭めぐりゆく

大阪府 森 隆一

朝ごとに先づ立ち上げるパソコンの花の画面で今日が始まる

静岡県 鷺巣錦司

ロンドンに二〇四本の旗立ちぬみな異なりて同じ大きさ

棟上げの槌音ひびく被災地に大黒柱まづは立ちたり  
岩手県 増田邦夫

五十戸が輪番に立つ通学路今朝は卒寿の母が旗もつ  
香川県 岡田正子

朝霧の立ちのぼりゐる山峡に婚の荷を積むトラックの来る  
福井県 上田善朗

六百のひよこ待ちつつ如月の駅のホームに夫と立ちをり  
青森県 野呂富枝

蕾もつダリアの列にネット張る杭千本を妻と立てゆく  
山形県 高橋政治

日陰では立ち止まりつつ水牛は島の家並みゆつたり歩む  
岡山県 阿部和子

若き日に行く手阻みし立山は今ふところに我を守れり  
富山県 山口桂子

ふる里の山の稜線立葵今年は一緒に見る人が居て  
島根県 角森玲子

ひとり立ちゆふひながめてふとおもふひとりもいいけどふたりでみたい  
鹿嶋市 有馬順子

太陽と月が重なり合つたこと君がつかまり立ちをしたこと  
奈良県 杉田菜穂

遠い月に地球の影がのびてゆく宇宙の中に今立ってゐる  
千葉県 湯田響弓